



伊藤 春美 議員



### HPV検査単独法導入について

**問** 子宮頸がん発症のリスク保持者を細胞診よりも早く見つけることができるHPV検査単独法を早く導入すべきと考えるが、現状を伺う。

**答** HPV検査単独法の効果を十分に発揮するためには、精度管理体制の構築が重要。現在、職員研修や個別の対象者の検診受診状況を追跡できる健康管理システムの改修に向けた準備を進めている。導入の時期については、慎重に検討していきたい。

### RSウイルスワクチン接種費用助成について

**問** 高齢者や基礎疾患を併存する方が重症化しやすいRSウイルス感染症について、重症化予防に有効性の高いRSウイルスワクチンの接種費用を補助できないか伺う。

**答** 現在、RSウイルスワクチンについては、国が定期接種化を検討し、審議が進められている。接種費用の助成については、今後の国や県の動向、他市の取り組みを参考にしながら、対応を検討していきたい。

### 動物基金登録について

**問** \*TNR活動や保護猫活動などは、ボランティア団体や個人の善意によって支えられている。行政として支援が必要だと考えるが、TNR活動などを行っている方への支援として、どうぶつ基金の行政枠への登録はできないか伺う。

**答** どうぶつ基金の行政枠への登録については、関係機関と意見を交わしながら、申請方法やチケットの配布方法等も含め、保護活動を行っているボランティア団体や個人の方が利用しやすい制度となるよう、登録について検討していきたい。

※TNR活動……解説は16ページ。

**問** ふるさと納税等を利用した支援を行っている自治体もあるようだが、本市でも導入はできないか伺う。

**答** 様々な形で支援を行っている自治体もあるようなので、今後、それらの先進的な取り組みの情報を収集していきたい。

### 洋上風力発電事業について

**問** 三菱商事、中部電力などの企業連合は、物価高で採算が取れないと判断し、千葉県銚子沖を含む3海域での洋上風力発電事業から撤退するという報道があった。撤退に伴い出捐金にどのような影響が出るのか伺う。

**答** 協定書には事業の継続が困難となった場合は、出捐義務を免れると規定している。撤退後も地元への支援を継続するように事業者へ要望したが、現時点では支援を継続できるかは分からないとのことだった。

※出捐金……解説は16ページ。

### 特定外来生物ナガエツルノゲイトウ対策について

**問** 3年くらいの繁殖状況を見ると、同じ場所に繁殖している。何か同じ場所に繁殖する原因があるのではないか。そのような現状に対して、対策はどのような取り組みでいくのか伺う。

**答** ナガエツルノゲイトウは拡散力、再生力が非常に強く、僅かに残った断片からも再生するため、何度も同じ場所で繁殖を続ける。このため粘り強く継続して駆除に取り組む必要がある。引き続き、農業事務所や土地改良区と共に、対策を進めていきたい。

**問** 国や県に対して、利根川上流部のナガエツルノゲイトウの防除対策と根絶を強く要望すべきと考えるが見解を伺う。

**答** 利根川からの防除対策については、関係する市町村や土地改良区などと連携した取り組みが必要となることから、今後検討していきたい。

### 米の生産について

**問** 耕畜連携を進めていく上で、飼料用米の生産と利用促進を支援していくべきではないか。今後の取り組みを伺う。

**答** 長期的に飼料用米は、自給率の向上や所得の安定に必要であり、当市の耕畜連携はモデル的な取り組みなので、引き続き、国・県へ支援の拡充を要望していくとともに、畜産農家と米農家との連携体制を堅持していきたい。その他の質問事項  
○防災行政について



宮内 保 議員

